

令和2年度 厚木市障害者協議会 第1回 防災プロジェクト会議録

日時	令和2年11月5日(木) 午後2:00～午後4:00
場所	厚木市保健福祉センター5階 視聴覚室
出席者	民生委員・児童委員、防災指導員経験者、厚木市社会福祉協議会、あつぎ災害ボランティアネットワーク、合資会社ハートフルライフ アッサンブラージュ 妻田、(有) いいつか生活介護 ajito、すぎな会、厚木市障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支援センター
<p>1. 開会</p> <p>総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料確認(次第、名簿、防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版、令和元年度の研修アンケート結果、厚木市障害者協議会の取組について(A3)、厚木市障がい福祉計画(第6期)の施策の体系図(A3)、令和2年度代表者会議、実務者会議での意見(まとめ)、在宅・分散避難を選択肢に(広報あつぎ)) リーダー選出、(事務局候補) <p>2. 議題</p> <p>議事進行 厚木社会福祉協議会</p> <p>(1) プロジェクトの経過報告</p> <p>厚木市障がい者基幹相談支援センター 資料：令和元年度の研修アンケート結果参照</p> <p>地域づくりの視点から障がい者の災害時における地域防災について検討を重ねています。</p> <p>平成29年度は、荻野地区をモデル地区として要配慮者を中心とした避難訓練を地域自主防災隊等の協力のもと、平成30年3月4日鳶尾4丁目地区で実施しました。</p> <p>平成30年度は、避難訓練の実施報告書を作成するとともに各地域の避難所運営委員会に呼びかけ、避難訓練実施報告会を実施、地域全体の意識向上を目指しました。</p> <p>令和元年度から、新たにプロジェクトを組織し、障がい者の「自助」に関する取組を行っています。</p> <p>令和元年度は、「自助」ということをテーマに、もともとあった防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引きの修正・簡易版の作成を行いました。また、啓発事業として講演会「災害に備えて自分たちでできること～東日本大震災から考える障がい者の防災～」と題して自立生活センターの当事者の方のお話を伺いました。その時のアンケート結果を資料として配布してあります。</p> <p>(2) 本年度の取組み内容について</p> <p>厚木市障がい者基幹相談支援センター</p> <p>令和2年度上半期においては、皆様と修正を重ねた防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版を本年度第1回代表者会議にてご承認いただき、完成の運びとなりました。厚木市のホームページにアップしてあります。</p> <p>また、きょうさんれんの結成40周年を記念して制作した災害映画(2011年3月11日の東日本大震災での障害者の状況と支援者の活動を描いたもの)の試写会「星に語りて ～Starry Sky～」が、令和2年10月2日に厚木市文化会館で上映され、防災プロジェクト委員と鑑賞しました。</p> <p>厚木市障がい福祉課 資料：厚木市障害者協議会の取組について(A3)、令和2年度代表者及び実務者会議での</p>	

意見(まとめ) 参照

令和2年度下半期については、防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引をどのような形でどのような団体組織に周知していくのか検討したい。プロジェクトメンバーの防災対策や防災訓練についての情報共有や現在抱えている防災に対する課題等の洗い出しが出来ると思います。コロナ禍なので、昨年度のように、講演会や研修会は難しいので、今年度については、話し合いで終わってしまうかなと思うが、有意義なものにしていきたい。

令和2年度代表者及び実務者会議での意見(まとめ)の資料の中で、防災プロジェクトについてご意見をもらっている。

携帯版について避難所運営委員会と情報共有をして欲しい。携帯版をどう持たせるのか。チェックリストの内容に変更がないか定期的に見直しと活用が大切である。チェックリストにQRコードを付けて、避難所に行った時に、QRコードを見せれば、すぐに避難所名簿ができるようにならないか等とご意見があるので検討していかねばならないかと思っています。

(3) 意見交換

① 防災対策チェックリスト及び防災対策チェックリストの手引き、簡易版の周知と活用について

現在、厚木市のホームページ上に掲載をしている。在宅分散避難を選択肢に(広報あつぎ)の資料に防災対策チェックリストのご利用のお願いがあり、防災対策チェックリスト及び手引き、簡易版がダウンロードできるようになっている。市内にある相談支援事業所に防災についての相談があったら、活用して欲しいと5部ほど配布している。もう少し広めていく必要がある。(厚木市障がい福祉課)

・福祉施設にあったら良い。初めて見た。事業所の職員が見ないと使えない。管理者が知っているのと防災訓練で役に立つと思う。ホームページの案内では、危機管理意識に事業所の温度差があり、メールを見ない事業所もあるかと思うので、事業所の連絡会で配布できると防災の話題で話あえて良いのではないかと。(ハートピアラ)

⇒事業所には、メールでホームページにあることを通知し、紙ベースで欲しいところに事業所が取りに来れるようにしたい。全部の事業所に紙ベースで配布することはできない。それぞれの連絡会で説明をして周知を図っていききたい。(厚木市障がい福祉課)

・手帳の新規申請者などに障がい福祉課の窓口で渡すのはどうか。(いづか生活介護 ajito)

⇒防災に関する相談があれば、窓口で渡してもらおうよう周知はしている。(厚木市障がい福祉課)

・避難所運営委員会や指定避難所は、こういうのがあると知らない。避難所運営委員会にホームページにあるので活用して欲しいと要請を出してはどうか。(防災指導員経験者)

⇒まだ、自治会、地域の方に主だって行っていない。48ある避難所運営委員会の委員長宛にこういったものがあるということで、冊子でお配りして、その避難所で活用したいということであれば、ホームページでダウンロードしていただくか、紙ベースで欲しければ、障がい福祉課の窓口に取りにきていただく形で広めていけたら良いかなと思った。(厚木市障がい福祉課)

・これは、障がい者が自分で記入するのか。管理は避難所運営委員会が管理すると思うが。(防災指導員経験者)

⇒実際、避難所運営委員会が開設されて、携帯版を見てもらうのは、避難所運営委員会になると思う。(厚木市障がい福祉課)

- ・避難所に指定されている施設の方たち、小学校や公民館に、チェックリスト、簡易版を持った方たちが来ると思うので周知が必要ではないか。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)
- ⇒風水害時に避難所になる公民館にも配下するようにしたい。(厚木市障がい福祉課)
- ・協定施設になっていて、今まで受入れはないか、チェックリスト、簡易版等があれば、新しい方でも受け入れやすい。職員に周知をしても、実際避難してきた方が持って来るのか受入れ側が心配なところである。チェックリスト、簡易版等を施設に置いて、持ってこなかった人にその場で書いてもらう方法もある。(すぎな会)
- ② コロナ禍における各機関の防災対策の取組みについて
 - 10月18日に市の総合防災訓練があり、やっている地域もあったと思うがその取組みの情報共有をしたい。(議長)
 - ・防災訓練はなかった。個別訪問が基本である。コロナ禍なので狭い中で話すこともできないし何も出来ていないのが正直なところである。携帯電話の番号を教えて、何かあったら言ってねという程度にしかしていない。私も足が悪いので、助けに行けないとわかっているみたいで、自分の事は自分でやっているからと言ってくれる。いろいろな障がいの方について、どう接して良いかわからない。対応に悩む時がある。(民生委員・児童委員)
 - ・コロナ禍において、民生委員のルールはあるのか。(厚木市障がい福祉課)
- ⇒社協として民児協も持っているが、特別ルールはない。訪問するのは、最初の頃は控えてください。行ったとしても、短時間で済ませてくださいと言っていたが、社協から話した中では民生委員で判断してもらいたいとのことだった。それぞれの地区で検討してもらおうという事で厚木市ではコロナ禍の中でも民生委員主体で活動してもらっている。他の市町村だと活動を止めてくださいというところもある。(議長)
- ・コロナ禍で行事がほとんど中止になった。4月の自治会連絡協議会総会、ソフトボール、歓送迎会、盆踊り大会、運動会など全部中止になった。うちの自治会としては、地元で何とかしようと7、8月にラジオ体操をやった。10月に伸びた総合防災訓練は、各自治会の自主防災隊でやるかやらないか決めて、やるのであれば、コロナの対策を考えてくださいという事であった。うちの自治会は、外の広場で行うのでそんなに密にならないので、時間短縮で昨年同様訓練を行い終わった後に弁当を持って帰ってもらった。参加は役員のみ18人だった。(防災指導員経験者)
- ・避難所運営訓練は行ったのか。(厚木市障がい福祉課)
- ⇒厚木小学校が指定避難所である。いつもは、通知を出して地域住民が厚木小学校に避難して来たという想定で訓練を行っていたが、今年は、コロナ禍なので、みんなを集めて行うのは、中止になった。コロナ対策を考えた避難所運営訓練やってくださいと市から要請があったが、実際に訓練する場所がなくて行っていない。(防災指導員経験者)
- ・厚木北公民館は、水害の避難所になっているが、壊して立て直す予定である。立て直している間どうするのか、レイアウトをどうするのか等、北公民館で建設委員会を作り、検討している最中である。たぶん2、3年できるまでにかかると思う。今までは、北公民館に併設して児童館があったが、児童館は、前の郷土資料館(下川入に移動した)を壊し、厚木北児童を建設する。(防災指導員経験者)
- ・3月の防災訓練がずれて、10月に避難訓練を行った。利用者の家族から応援で毛布をいただいた。コロナ関係は、県から周知が来ていて、大きな研修や密になる行事を4、5月は実施せず、現在は施設内の環境を整え、出掛けるというより施設の中で、イベント等少しずつ行っているところである。複数の施設を利用している方で、他の施設でコロナの陽性者が出たため、その中で濃厚接触者になりかけた方がいたり、日々どうすれば良いのか悩み

ながら、行っている状況である。直接、私どもの職員や利用者が濃厚接触者になったというわけではないが、病院に連れて行けば、陽性者が出ているというのもあるので、事業所間でどうなっているのか心配しながら行っている。(有) いいつか生活介護 ajito)

- ・前期の防災訓練については、放課後等デイサービスとか生活介護を中止にした。後期については、密を避けながら、防災訓練を実施した。どちらかという職員に慣れてもらうという事を目的に行っているので、コロナに配慮しながらやっていくのは、大変である。年に1回引き渡しカードを作っている。利用者の緊急避難場所があり、そこに親が迎えに来られない場合に、普段会っていない父親や祖父母の顔がわからないので、住所や携帯番号の読み合わせをし、本人確認をして引渡しをする取組みを行っている。何かあったときに、それをひとまとめてして持って行くというところを職員に徹底している。自分のところは、いくつかの事業所があるので、情報を一括して全部持っている。コロナに関しては、陽性者が出たら仕方がないと思っている。利用者より、職員の方が大変である。ご家族の方もいるので、擬陽性の疑いがあった職員がいた時は、入院したがコロナが出なかった。出勤してくれる職員を確保するのが、難しい状況である。現場の職員に任せるのではなく、上の方で方針を決めておいて、判断していくという措置を取っている。風邪症状と言われて、1週間2週間休まれると事業所が回らなくなる。内規で3日~5日の休みにしている。ご家族の職場で陽性者が出たのに、利用者さんを通所させてくるご家族もあった。事後で言われた。事前に言って欲しかった。利用者の訓練は、一緒に避難したり、ヘルプに入ってもらったりした。重度の方たちなので、いざとなつて座り込んでしまったら職員2人で担いでいくしかないと打ち合わせはしている。いざとなつたら無理にでも連れていくしかないので、事前に代理人に説明をしている。(ハートピアラ)
- ・入所施設なので、コロナが入ったら大変である。絶対入れてはいけないというところで、初めはピリピリしていた。職員の家族が海外から帰国したが、その職員は2週間休んでもらった。本年度は、帰宅は中止。面会は事前に連絡をいただき、居室ではなく、違う場所で時間を区切る。外出については、一人で公共交通機関を利用するのは止めてもらっている。車を利用しての外出や近所のコンビニ、スーパーの利用は良い。検温、マスク、消毒は身につけている。インフルエンザも出ていない。何事もなく過ごせば良いと思っている。防災に関しては、定期的に利用者を中心に避難訓練を実施している。施設内なので通常通り行っている。昨年から、地域の方々と防災が出来たらと計画を立てている。地震車を呼んで、地域の方々にも体験してもらおうという話も出ていたので、こういう状況であるが地域の方にお知らせをした。10人ほど集まり、地震車と水消火器を防災の会社の方にお願ひして、9月29日に体験した。この防災訓練の様子は、厚木のタウンニュースに掲載された。(すぎな会)
- ・3月に夫が職場で濃厚接触者になってしまった。市役所に相談したら、控えてくださいと言われて、2週間身動きが取れなくなってしまった。包括支援センターに連絡を取っていて、『大丈夫ですか。お買い物は?』と心配をしてくれたが、誰も近寄れない状況なので断った。症状が出なかったのもそれでよしとした。いつどうなるかわからないと身をもってわかった。(民生委員・児童委員)
- ・いくつかの会合も出席できず、ajito さんからの依頼もまだ行っていない。この先どうなっていくか見えない状況の中、オンラインで防災会議をした。防災訓練は、公民館だよりで、行った事を知った。ある地域は時期をずらして10月18日に行っていた。9月の避難訓練は、コロナ禍の状況でテントを設置したり、間隔を空けて訓練したりしていた。たまたま、相模川の横の小学校だったので、風水害では使えないと掲載されていた。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

- ・災害ボランティアネットワークに協力してもらいながら、市の総合防災訓練に併せて災害ボランティアを受け入れる災害救援ボランティアセンター立ち上げる訓練を毎年している。4階のボランティアセンターを使って行っているが、今年はコロナの影響でサンパークが密にならないように人も減らして行った。青年会議所や市役所、登録している運営スタッフに協力してもらった。地域の障がいのある方から連絡がきたという設定ではあるが、一般の人がメインで障がいのある方の支援まで考え切れていない。社協の職員として考えていかななくてはいけないし、いろいろな団体と繋がっていかなくてはいけない。平時から皆さんと繋がっていたら良いのかと思った。参加人数は、全員合わせて49人である。去年は50～60人、ボランティア役で市の職員に来てもらうが去年は20～30人位。今年は20人位、他の関係機関に人数も減らした。(厚木市社会福祉協議会・議長)
- ・今年は10月18日総合防災訓練を行った。昨年大型台風19号が厚木市に近づき甚大な被害の恐れのある直前までいったこともあり、今年は、それを想定しての訓練だった。障がい福祉課で行ったことは、台風が近づくとそれぞれの公民館に行って危険箇所をパトロールする任務がある。自分は、森の里と相川地区のルート確認をした。(障がい福祉課)
- ・市役所では、パトロールの部隊が2つと協定施設に障がいのある方がどのように行ってもらおうかという訓練をした。具体的には、指定避難所で過ごせない場合、避難所から市役所に連絡が入り、市役所から協定施設に受入れの要請をかけ受託になれば、市役所が、指定避難所に受入れ先を伝え、協定施設まで介助者で行ってもらう。協定施設側が、食事の提供をすると市役所が費用負担をする。今回は、市役所の中で、シミュレーションを行った。市役所、協定施設、指定避難所と3役を順番に行ってみると、市役所は仲介役になっている。情報をひな型に落とし込むのだが、この情報があるのか、oirないのか、もう少し特性を書いた方が良いのかシミュレーションを行ってわかったこともあった。(障がい福祉課)
- ・今まで協定を結んでいたが、発動したことはなかった。去年初めて台風19号の時に、発動したということでこの訓練になった。協定施設側は、場所を貸すだけで支援の想定はしていない。(障がい福祉課)
- ・ゆいはあとは、風水害、地震の時に、呼び出しがかかり、事業所に詰める形になる。毎年、1回、2回と呼び出しがあり詰めることになるが、本年度は、大きな台風が来ていないのでない。あつたらコロナだしどうなるのかと思っていた。協議会の中でも避難所に行ったけど、そこでの受入れがなかなか上手くいかなかったなどいろいろな意見があるので、実際避難所に私たちも行って、受入れやその後のフォローなどをしていかなければいけないと何となく感じているところである。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ・協定施設に行く場合は、誰が連れて行くのか。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ⇒協定施設に行く場合は、原則一人で行ける方は一人で、介助者がいれば、介助者と行く。避難所運営委員会の委員や市役所の職員が連れて行くことは想定していない。単身者で介助者もいない場合は、他の誰かとなった場合は、行政が行うしかない。(障がい福祉課)
- ・協定施設はどこに想定しているのか。(防災指導員経験者)
- ⇒市内に29ヶ所協定を結んでいる施設がある。介護関係、障がい関係、飯山、七沢の旅館である。障がいというと、市内の入所施設でこうばい学園、すぎな会、野百合園、七沢学園、愛の森学園、厚木精華園、愛名やまゆり園の7施設である。去年受入れ実績のあった山際の甘露園などもある。あまり受入れ施設を公にはしていない。公にしてしまうと、ここに避難すればいいのかといきなり施設に行ってしまう方もいる。施設も困ってしまうと思う。厚木市の地域防災計画では、協定施設はオープンになっている。非公開ではないが、パンフレットに載せて広く周知するという事はしていない。厚木北地区で一番近い施設となると、はなの家とむろがある。(障がい福祉課)

⇒年寄で遠くまで行くのは大変である。是非街中にあると良い。(防災指導員経験者)

⇒福祉避難所ができるが一番良いが、なかなか難しい現状がある。(障がい福祉課)

③ 下半期に検討する課題について

社協の方で、今年は、地域福祉計画の策定の時期であった。それに併せて障害福祉計画もできていると思うので、ここについても検討していった方がいいのかと思う。(議長)

- ・民生委員と障害者の接点がないので、チェックリストを民生委員が持って訪問するのはどうか。(民生委員・児童委員)

⇒前の議題の周知方法で検討する。(障がい福祉課)

厚木市障がい者福祉計画の施策体系図10番に障がい者が参加しやすい防災訓練についても協議をしてはどうかと思う。(議長)

- ・防災訓練に障がいのある方は参加しにくいとか、参加していない、そもそも自治会に入っていないとか、意見をもらっているが、そういうところも含めて、どんな風にしたら良いか。いきなり、『助けてよ』と言われても、繋がりがない中、いろいろな障がいがあってどう対応したら良いかわからないと防災指導員経験者からもご意見がある。地域の訓練の中で障がいのある方もない方も一緒に参加が出来るようにするには、どうしたら良いのか課題の一つである。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
 - ・実際あるアンケートで『自治会が主催している防災訓練に参加しているか』の問いに対して、半数以上が参加していないと答えている。その理由としては、地域の防災訓練に参加すると迷惑がかかってしまう。普段から関わりがないことで、参加するのをためらうという意見がある。実際障がいのある方が来られると自治会の方は、どういった対応をするのか。(障がい福祉課)
- ⇒対応を迷ってしまう。時間も限られているし、内容もいろいろあり、そこまで手がまわるかどうか。総合防災訓練の時に、1回だけ車椅子の方が参加したことがあった。一般の人と同じ様に訓練に交じていた。(防災指導員経験者)
- ・実際、台風19号の時も、避難したいと考えていた人が避難所に行くと、迷惑がかかり、相手にしてもらえないくらいなら、避難しない方が良いという思いがあった。その方が住んでいるところは、ダムが決壊して、埋没してしまうような地域で自分はどうなっても良いという方がいた。そういう方たちが、どう防災訓練に参加していただけるか。防災訓練までいなくても、自治会のちょっとしたイベントに参加してもらえば、こんな人がいるとわかってもらえる。参加できそうな人たちをどう引っ張っていくのかが必要だと思う。それがひいては防災訓練に繋がる。抵抗なく参加できれば良いと思っている。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)
 - ・ハートピアラでは、重度の自閉なので避難はしない。絶叫、パニック、避難所がカオスになる。できるなら、ぎりぎりまで事業所で見ると。あと、職員がいてくれるかなと思う。避難所に行ったら、適応できない事をわかりきっている。暴れて抑え込む対応をするので避難は現実的ではない。避難先は、福祉避難所でもきついかないと、どうしようかと話をしているが、解決策が出てこない。迷惑だからと言えるのは良い。言えない方たちなので、避難しないと思う。避難しない方のケアも課題だと思っている。3分の2が、逃げられないと思う。近くの事業所と協定を作って連携を取っていくしかない。災害が起こらないだろうと思う反面、頭の片隅には、起きたらどうしようと思う。あえて日々の忙しさを考えないようにしている。誰かが声を出さないと話し合えないので、コーディネートをして誰かがしてくれると良い。職員がそこに来てくれるか、家庭を持っている職員も多い。誰が残るのか。十何人も一人で見られるわけがないので、近くの事業所との連携が必要になってくる。知的の重度や発達障がいには目に見えないから、理解するのは難しい。生活介護や知的などの2、3人のグループで課題について話し合う分科会みたいなものがあると良い。(ハートピアラ)
 - ・避難所の運営委員は、素人である。障がい者に関わったことのない人が当然いるので、自分

としては、どうして良いかわからない人たちがばかりである。先ほども話をしたが、市の方で、市内の近いところに福祉避難所を作り、介護してくれるような人を頼む。そういう風にしなないと無理だと思う。是非福祉避難所を作って欲しい。(防災指導員経験者)

- ・福祉避難所で全てを賄うのは難しい。例えばそちらの方に避難するのは、重たい方、そうでない方については、指定避難所に行く。(障がい福祉課)
- ・市から避難行動支援計画の名簿が来るので、そういう方を特に対象にしたらどうだろう。災害が起きた時には、民生委員も素人でいざという時には手が回らないと思う。(防災指導員経験者)
- ・福祉避難所については、いろいろな場面で要望があり、危機管理課に話をしたことがあるが、実際は進んでいない。神奈川県周辺の市をみても福祉避難所をやっているところはない。協定施設への移送は結構ある。福祉避難所は、長年要望があることなのであった方が職員もやり易いと思う。理想であるが、福祉避難所には、キャパがある。大勢は受け入れられない。少しでも指定避難所で介助者がいて滞在できるような方をカバーして行くのがいいのかなと思う。このプロジェクトでできそうなところから考えていけると良いのかと思う。(障がい福祉課)
- ・防災は、地域で顔の見える関係があれば、避難所に避難してきたときに見た事があると、奇声を発しても普通のことなんだと日々わかっていけば大丈夫だと思う。(障がい福祉課)
- ・市で地域包括ケアを目指していく中で、同じベクトルで向いている感じであるので地域の皆さんの顔がわかるような取組みをすることで防災も上手く進んでいくのかなと思う。障がい者が参加しやすい防災訓練というのは、参加したら悪いと思っている人が参加しやすいような雰囲気作りかな。防災訓練に焦点をあてないで、身近な関係を作って行くことでゴールに防災訓練に参加しやすくなるのではないかな。(障がい福祉課)
- ・障がい者ではなくて、職員が地域に受入れてもらえるかである。職員が挨拶して、話をして、障がい者を理解してもえる。長い時間かけて受け入れてもらえると近所の方との職員垣根が高く、この仕事していて難しい。永遠の課題である(ハートピアラ)
- ・去年、ボランティアの研修で“備える”というパンフレットがあった。減災に向けて、家族で備える。家具を備える、食料を備える等、いろいろな“備える”があるが、コミュニケーションで備えるのがとても大事である。自分が助かる事が大事で、そうしないと次の人を助ける事ができない。自分が助かる方法を考えるのが一番で、そこからこの子が助かるためにはどうしたらよいか家族が考える。そのためには、近所の方たちと顔の見える繋がりを作っておく。今コミュニケーションが取りにくい。母親が認知症で今年の4月から病院に入院している。面会が全くできない時期が2ヶ月続いた。オンライン面会で話をしても伝わり切れない。文章を見せて、母親が答える。そういった感じのやりとりをしてコミュニケーションが取れる。どうやったらコミュニケーションが取れるのかというやり方をソフト面やハード面で少し考えたら良いのかと思う。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

議事進行 厚木社会福祉協議会 ⇒

総合司会 障がい者基幹相談支援センター

(4) その他

- ・在宅・分散避難を選択肢に(広報あつぎ)資料参照
- ・厚木市の情報(災害も含めて)ラインで登録できる様になった。

次回は、令和3年1月

以上